

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1988. 1

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD

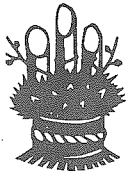


NO. 44

日本野鳥の会埼玉県支部

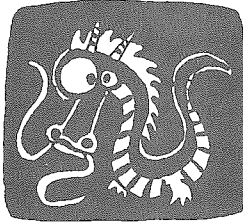


Where are you?



—— 埼玉県産鳥類・普通種・地域別季節別生息状況 ——

日本野鳥の会 埼玉県支部研究部



あけまして、おめでとうございます。今年こそ、鳥たちにとって、よい年でありますように……。

今月号の特集は、研究部からのお年玉です。

当支部研究部では 本誌No. 32 (1987年1月号)において1978年以後の埼玉県産鳥類リストを発表しました。今回は本県において普通に見られる種の地域別(表1)、季節別(注2)の生息状況をまとめました。本リストは種ごとの定常的、平均的な生息状況を示してありますので、地域の環境を示す指標となるものです。

なお、紙面の都合上、県内全域に生息している種、秩父山地を除く全域に生息している種、秩父山地のみ生息している種は表1の下に示し、その他の種を表2に示します。

注1 番号は埼玉県産鳥類リストの番号。

注2 S:夏に生息(繁殖又は越冬)

W:冬に生息(越冬)

T:通過のみ(春、秋の渡り時)

(執筆) 石井智、榎本秀和、小荷田行男
藤原寛治、森本國夫



表1 埼玉県の地域区分

地域	地形区分	おもな都市名
県南東	低地	草加、越谷
県南中	台地、低地	川口、浦和、大宮、上尾
県南西	台地、低地	所沢、川越
県央・東	低地	鴻巣、久喜、加須、栗橋
県北	台地、低地	熊谷、深谷、本庄
県西南	丘陵	飯能、越生
県西北	丘陵	皆野、寄居
秩父	山地	秩父山地

県内全域

通年(S,W) コジュケイ・キジバト・カワセミ・ハクセキレイ・ヒヨドリ・モズ・シジュウカラ・メジロ・カワラヒワ・スズメ・ムクドリ・オナガ・ハシボソガラス・ハシブトガラス
 夏(S) アオバズク・ツバメ・イワツバメ
 冬(W) ジョウビタキ・ツグミ・カシラダカ・マヒワ・シメ

県内全域(除、秩父山地)

通年(S,W) ゴイサギ・ダイサギ・コサギ・カルガモ・ヒバリ・セッカ
 夏(S) ササゴイ・アマサギ
 冬(W) ユリカモメ・タヒバリ

秩父山地のみ

通年(S,W) クマタカ・アオバト・コノハズク・オオアカゲラ・イワヒバリ・カヤクグリ・ゴジュウカラ・キバシリ・ホシガラス
 夏(S) ジュウイチ・オオコノハズク・ハリオアマツバメ・アマツバメ・アカショウビン・コマドリ・コルリ・メボソムシクイ・エゾムシクイ・サメビタキ
 冬(W) ハギマシコ

表2 種別・季節別生息状況

番号	種名	地域							秩父	番号	種名	地域							秩父	
		県南東	県南中	県南西	県央・東	県北	県西南	県西北				県南東	県南中	県南西	県央・東	県北	県西南	県西北		
1	カイツブリ	S.W	S.W	S.W	S.W	S.W	S.W	S.W	S	108	タカブシギ		T.W	W	T	T				
12	カワウ	S.W	S.W							109	キアシシギ		T	T	T	T				
14	ヨシゴイ	S	S	S	S	S				110	イソシギ	S.W	S.W	S.W	S.W	S.W				
16	ミゾゴイ					S	S	S	S	114	チュウシャクシギ	T	T	T						
22	チュウサギ	S	S	S	S	S				117	タシギ	T.W	T.W	W	W	W				
24	アオサギ	W	W	W	W	S.W				119	オオジシギ		T	T.S						
28	コハクチョウ					W				122	ツバメチドリ		T			T.S				
30	オンドリ					W		S.W	S.W	124	セグロカモメ	W	W		W					
31	マガモ	W	W	W	W	W	W			125	ウミネコ	W	W	T						
33	コガモ	W	W	W	W	W	W			130	コアジサシ		T	T	T	T.S	T			
34	トモエガモ	W		W	W					131	シラコバト	S.W	S.W		S.W	S.W				
35	ヨシガモ	W		W	W	W				135	カッコウ		S	S	S	S	S	S	S	
36	オカヨシガモ	W		W	W	W				136	ツツドリ						S	S	S	
37	ヒドリガモ	W	W	W	W	W				137	ホトトギス			S				S	S	
39	オナガガモ	W	W	W	W	W				138	トラフズク		W	T						
40	シマアジ	T	T	T	T	T				139	コミミズク	W	W	W	W	W				
41	ハンビロガモ	W	W	W	W	W				143	フクロウ						S.W	S.W	S.W	
42	ホシハジロ	W	W	W	W	W				144	ヨタカ			S			S	S	S	
45	キンクロハジロ	W	W	W	W	W				148	ヤマセミ			W			S.W	S.W	S.W	
46	スズガモ	W	W	W	W	W				152	ブッポウソウ							S	S	
50	ミコアイサ			W		W				155	アオゲラ			S.W	W	W	S.W	S.W	S.W	
54	ハチクマ							S	S	156	アカゲラ			W	W	W	S.W	S.W	S.W	
55	トビ					S.W	S.W			158	コゲラ		S.W	S.W	S.W	S.W	S.W	S.W	S.W	
58	オオタカ			S.W		S.W	S.W	S.W		160	ショウドウツバメ		T	T	T	T				
59	ツミ		S	S	S	S	S	S		166	キセキレイ	W	S.W	S.W	S.W	S.W	S.W	S.W	S.W	
60	ハイタカ			W					S.W	168	セグロセキレイ	W	S.W	S.W	S.W	S.W	S.W	S.W	S.W	
62	ノスリ	W	W	W	W	W				169	ビンズイ		W	W		W	W	W	S	
63	サシバ		S	S	S	S	S	S	S	172	サンショウクイ			S			S	S	S	
71	チョウゲンボウ	W	S.W	W	S.W	W	W			180	カワガラス							S.W	S.W	
72	ウズラ		S.W	S.W		S.W				181	ミソサザイ			W		W	S.W	S.W	S.W	
74	ヤマドリ							S.W	S.W	188	ルリビタキ		W	W		W	W	W	S.W	
75	キジ	S.W	S.W	S.W	S.W	S.W	S.W			190	ノビタキ		T	T	T	T				
77	クイナ	W	W	W	W	W				193	マミジロ						S	S	S	
79	ヒクイナ	S	S	S	S	S	S			194	トラツグミ		W	S.W		W			S	
80	バン	S.W	S.W	S.W	S.W	S				195	クロツグミ			S					S	
83	タマシギ		S		S					196	アカハロ		W	W	W	W			S	
84	コチドリ	S.W	S.W	S	S.W	S	S	S		197	シロハラ		W	W	W	W				
85	イカルチドリ	W	S.W	S.W	S.W	S.W	S.W	S.W	S.W	200	ヤブサメ			S			S	S	S	
86	シロチドリ	W			S.W	S.W				201	ウグイス	W	S.W	S.W	S.W	S.W	S.W	S.W	S.W	
88	ムナグロ		T.W	T		T				204	コヨシキリ		T.S	T	T.S					
90	ケリ		T.W		W					205	オオヨシキリ	S	S	S	S	S		S		
91	タゲリ	W	W	W	W	W				208	センダイムシクイ							S	S	S
93	トウネン		T			T				209	ククイタダキ		W	W	W	W	W	W	S.W	
98	ハマシギ	W	T.W	T		T.W				211	キビタキ			S			S	S	S	
106	アオアシシギ		T	T		T				214	オオルリ							S	S	
107	クサシギ		T	T.W	T.W	T.W				216	エゾビタキ		T	T	T	T				

番号	種名	地域							秩父
		県南東	県南中	県南西	県尖東	県北	県西南	県西北	
217	コサメビタキ							S	S
218	サンコウチョウ		S	S	S	S	S	S	S
219	エナガ			S.W	W	S.W	S.W	S.W	S.W
220	コガラ			S.W					S.W
221	ヒガラ		W	W	W	W	W	W	S.W
222	ヤマガラ		W	S.W		W			S.W
227	ホオジロ	W	S.W	S.W	S.W	S.W	S.W	S.W	S.W
229	ホオアカ	S.W	W				S.W		
231	ミヤマホオジロ		W	W	W	W			
234	アオジ	W	W	W	W	W	W	W	S.W
235	クロジ		W	W	W	W	W	W	S
236	オオジュリン		W		W	W			
238	アトリ		W	W	W	W	W	W	W
245	ベニマシコ						W	W	W
246	ウソ						W	W	S.W
248	イカル		S.W	S.W	S.W	S.W	S.W	S.W	S
252	コムクドリ						S	S	S
255	カケス		W	W	W	W	S.W	S.W	S.W

< 文献 >

埼玉県教育委員会 1987 埼玉県動物誌
埼玉県 浦和
入間野鳥の会 1983 入間地方の野鳥 一
所沢・入間・狭山三市の野鳥生息調査報告書
日本野鳥の会埼玉県支部入間野鳥の会 入間
松田喬 1984 秋ヶ瀬の野鳥 浦和北高研
究紀要 No.4 78~91 浦和北高 浦和
(財)埼玉県野鳥の会 1985 埼玉四季の
鳥 埼玉新聞社 浦和
埼玉県環境部自然保護課 1986 埼玉の鳥
とけものたち 埼玉県 浦和
日本野鳥の会埼玉県支部 1978 ~ 1984 野
鳥さいたま No.1 ~ 66 大宮
日本野鳥の会埼玉県支部 1984 ~ 1987 し
らこばと No.1 ~ 42 浦和
(財)埼玉県野鳥の会 野鳥さいたま 1984
~ 1987 No.67 ~ 102 大宮
(財)埼玉県野鳥の会 ナチュラルアイ
1987 No.1 ~ 8 大宮

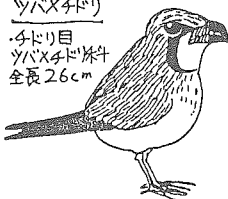


— ツバメチドリ繁殖記録(1987年夏, 阪東大橋) —

北川慎一(本庄市)・林 滋(美里町)

関東地方では珍しいツバメチドリが、1987年、本庄市阪東大橋下流の利根川中洲に飛来し繁殖が確認できましたので報告します。中洲が河原より100m以上も離れており、観察は中洲に渡ることをしなかったり、平均1週間に1回であったため十分な報告でないことをお断りしておきます。なお、阪東大橋下流では、1985年に初めて小茂田英彦氏によって繁殖が確認されています(小茂田1985)。

ツバメチドリ
・チドリ目
ツバメチドリ科
全長26cm



ツバメチドリは、従来知られていた日本にもっとも近い繁殖地は台湾で、日本には旅鳥として記録されていましたが、1974年宮崎県で初めて繁殖が確認さ

れて以来、東進しています(浜口1985)。

5月5日、上空を飛ぶツバメチドリ1羽を初認。10日の支部探鳥会では中洲に4羽の成鳥を、20日には水浴び、羽づくろいをしているのを観察しました。24日には中洲の小石の間の離れた2つの巣で、それぞれ抱卵していました。そして6月6日、1つの巣でヒナを確認できました。もう1つの巣はまだ。12日、ヒナがだいぶん幼鳥羽になっていました。14日、もう1つの巣でもヒナがかえっており、親鳥がさかんに餌を与えていました。20日には幼鳥2羽、成鳥7羽を観察、成鳥の数が増えたのは、以前からいたが確認できなかったのか、後から渡ってきたものか定かではありません。28日、幼鳥はずいぶん成長し、形は整ってきたものの顔は幼ない。7月に入ると

親鳥に連れられ、幼鳥も飛んで土手まで寄ってくるがありました。8月、幼鳥も成鳥に混じって空中を飛び交い餌の昆虫を捕えている姿が観察できました。8月15日、若鳥3、成鳥8が最後の記録です。以上のことから2つがいが繁殖したものと思われます。

なお、この中洲ではコアジサシ・イカルチドリも数多く繁殖しており貴重な場所ですが、

周辺では砂利採取が行われており、この中洲にまで手が加えられないか心配です。

<参考文献>

- 小茂田英彦 1985 ツバメチドリ繁殖 野鳥 Vol.50 No.12 32 日本野鳥の会 東京
浜口哲一 1985 ツバメチドリ 山溪カラー名鑑 日本野鳥 277 山と溪谷社 東京



||||| 可愛い鳥たちの写真展を見て |||||

吉田 博 (足立区)

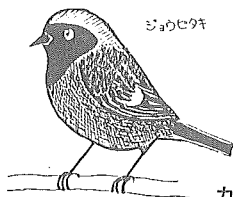
熊谷駅ビルA Z、A Z ホールに入った途端「いいな…」と感じました。私は、この第一印象を大切にしています。インプレッションがとても良いのです。その事は、作品の何か？を暗示させる雰囲気があると思いました。一つひとつの作品を、二度三度見てしまった程です。中にはプロと思われる作品もあり、質の高い写真展で共感した作品も多かったです。海老原さんの「カルガモ」等は、1枚の写真で多くを語ろうとしている欲張った作品ですね。水彩画を思わせる絵画的色調での対話をし、カルガモの美しさと可愛さを、自然と風景の中に一体感を求め、自然保護を強調している…！考え過ぎかな。

金井さんの作品では「アマサギ」が好きです。端的に鳥が前面に出て若さいっぱい。

若さと言えば、登坂さんの昆虫数点、いや全部に流れるカラーコントラストの力強さを感じ、若さっていいな…と思いました。

その中で、吉本さんの「スズメ」が私を静かな心してくれました。もし、スズメが力強くはっきりと撮っていたら、この作品の意図が薄れてしまいます。

絵を書く時の感性で感じたままに書きました。作者に失礼があると思いますが、お許し下さい。



カット 鈴木加代子

|||||.....理由があるのです |||||

杉本 秀樹 (杉並区)

拝啓、突然探鳥会に出なくなったのには理由があるのです。といたしても、別に鳥見をやめたわけではないし、彼女ができたわけでもありません。休みなしで仕事をしているだけです。今年いっぱいかかるめんどろな仕事を、会社の部長と二人でやっているのですが、どう計算しても、月に一日ぐらいしか休めないのです。10月の終わり頃に言い渡されてガーン！目の前まっくら！！

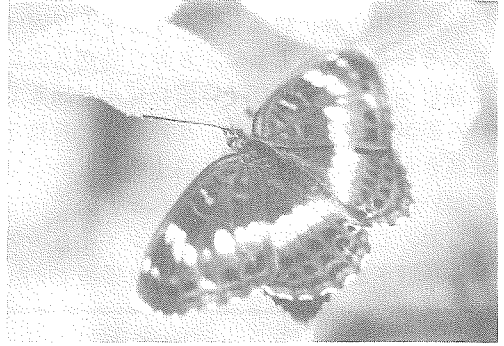
日一日と深まってゆく秋。僕はひたすら暗室の中です。カモのエクリプスは、もう終わってしまったでしょうね。ジョウビタキやアオジ、カシラダカも来ているでしょうね。泣きそうになってきました。埼玉の空は、きっと青く澄みわたっているでしょうね。鳥を見るには、ほんとうにいい季節ですもんね、ワーン (かわいそうな高円寺のムクドリ)。

— ごめんなさいコーナー —

前月号(No.43)2ページ、(1)身近にできる～ではなく(1)身近でできる自然保護—ミニサンクチュアリ、(2)冬期ミニ～ではなく(2)冬期ミニサンクチュアリ作りでした。訂正し、お詫びいたします。

野鳥情報

カンムリカイツブリ ◇11月8日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(林 滋)。◇11月8日、渡良瀬遊水池で1羽(近藤 崇)。
カワウ ◇11月8日、渡良瀬遊水池で2羽(近藤 崇)。11月11日、同所で62羽(中島康夫)。
コハクチョウ ◇10月22日～11月3日、越谷市の古利根川で成鳥2羽(山部直喜)。
◇11月21日、本庄市の阪東大橋下流で9羽(林 滋)。◇11月22日、渡良瀬遊水池で幼鳥1羽(山部直喜)。
トモエガモ ◇11月18日、吉見町の大沼で♂1羽。11月24日、同所でエクリプス羽の♂と♀各1羽(谷津弘子)。
スズガモ ◇11月8日、川本町の明戸堰で2羽(探鳥会居残り組)。
ミコアイサ ◇11月8日、渡良瀬遊水池で♀1羽(近藤 崇)。◇11月21日、本庄市の阪東大橋下流で♀1羽(林 滋)。
ミサゴ ◇11月11日、渡良瀬遊水池で1羽(中島康夫)。
ハチクマ ◇10月10日、鶴ヶ島町の川鶴団地上空を西へ(石井清澄)。
オオタカ ◇10月4日、浦和市秋ヶ瀬B地区で1羽(香川裕之)。
ノスリ ◇11月5日、川本町の明戸堰上空で1羽(渡辺 敦)。
チュウヒ ◇11月5日、川本町の明戸堰上空で♀1羽(渡辺 敦)。
ハヤブサ ◇11月21日、本庄市の阪東大橋周辺で1羽(林 滋)。
チョウゲンボウ ◇10月26日、草加市の毛長川周辺で♂1羽(香川裕之)。◇11月21日、本庄市の阪東大橋周辺で1羽(林 滋)。
ヒクイナ ◇11月1日、富士見市の柳瀬川で1羽(藤原寛治)。
クイナ ◇11月27日、浦和市の白幡沼で1羽(海老原美夫)。
タマシギ ◇10月10日、浦和市秋ヶ瀬大久保農耕地で♂1羽(石井 智)。
ムナグロ ◇11月8日、渡良瀬遊水池で10羽



(近藤 崇)。
タゲリ ◇10月25日、大宮市丸ヶ崎の田んぼで36羽(中島康夫)。◇11月8日、渡良瀬遊水池で20羽以上(近藤 崇)。◇11月21日、本庄市の阪東大橋周辺で2羽(林 滋)。
◇11月23日、妻沼町の刀水橋上流で15羽(山口輝雄)。
オジロトウネン ◇11月8日、渡良瀬遊水池で1羽(近藤 崇)。
ハマシギ ◇11月11日、渡良瀬遊水池で600羽(中島康夫)。◇11月21日、本庄市の阪東大橋下流で208羽(林 滋)。
オオハシシギ ◇11月21日～23日、大宮市三橋の関沼で1羽(渡辺朝一、石井 智)。
ツルシギ ◇10月3日、浦和市秋ヶ瀬の大久保農耕地で3羽(石井 智)。◇11月8日、渡良瀬遊水池で2羽(近藤 崇)。
アオアシシギ ◇11月8日、渡良瀬遊水池で3羽(近藤 崇)。
ソリハシシギ ◇11月21日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(林 滋)。
アマツバメ ◇10月19日、川越市波井の新河岸放水路上空で4羽(石井清澄)。
ヤマセミ ◇11月29日、皆野町の親鼻橋下流で2羽(山口輝雄)。
カワセミ ◇10月4日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で1羽(香川裕之)。◇11月12日、熊谷市の熊谷高校前の小川で1羽(鈴木忠雄)。◇11月29日、皆野町の親鼻橋下流で2羽(山口輝雄)。
アカゲラ ◇11月7日、川本町明戸で♂1羽(渡辺 敦)。
ビンズイ ◇11月21日、大宮市日進町で1羽(森本國夫)。

タヒバリ ◇11月7日、川本町明戸で1羽
（渡辺 敦）。

ジョウビタキ ◇10月30日、浦和市田島で1羽（福井 亘）。◇11月3日、大宮市北袋町で♂♀各1羽（浅沼源太郎）。

ツグミ ◇10月30日、蕨市の蕨高校で1羽（福井 亘）。◇11月7日、川本町明戸で1羽（渡辺 敦）。◇11月17日、熊谷市で2羽（鈴木忠雄）。◇11月18日、吉見町の市野川周辺で4羽（谷津弘子）。

キクイタダキ ◇11月14日、大宮市日進町で3羽（森本國夫）。

セッカ ◇11月16日、熊谷市の荒川大橋上流の川原でさえぎり飛翔する（渡辺 敦）。

サメビタキ ◇10月4日、浦和市秋ヶ瀬のピ

クニッケの森で1羽（香川裕之）。

ヒガラ ◇11月26日、大宮市日進町でクヌギの木にシジュウカラ、メジロ、コゲラの混群の中に1羽（森本國夫）。

ホオアカ ◇11月18日、吉見町の大沼付近の水田で3羽（谷津弘子）。

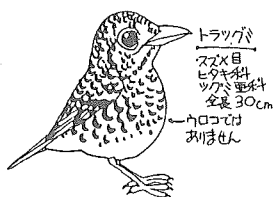
アオジ ◇10月17日、大宮市の深作調整池周辺の草原で1羽（中島康夫）。◇10月30日、大宮市日進町で1羽（森本國夫）。◇11月2日、浦和市町谷で1羽（福井 亘）。◇11月2日、浦和市秋ヶ瀬で1羽（福井 亘）。

オオジュリン ◇11月7日、大宮市天沼町のアソ原で1羽（近藤 崇）。◇11月8日、渡良瀬遊水池で3羽（近藤 崇）。

【1月の見どころ】

今年、どんな野鳥にあえるでしょうか。あれこれ考えて見るのは楽しいものです。

冬といえば、赤い鳥とすぐ連想される方は、だいぶ深みにはまっています。この辺で、赤い鳥を見たい場合は、軽井沢へ行くのが、近道のようなのですが、皆さんのフィールドでも、ベニマシコなら見られるかもしれません。林の中よりもその周辺部、河川敷や畑などやや開けた場所で見られることが多いようです。雄は、赤というよりは、朱に近い感じの色の



表紙の写真

かわいい小鳥です。雌は、他の鳥の雌と同じように地味な薄茶色ですが、翼の2本の白い帯が目立ちますので、すぐわかります。ベニマシコの雄は、個体により、かなり赤味に違いがあり、本当に赤いベニマシコには、なかなか会えないようです。

トラツグミという名前は、知っていると思えますが、姿を見たことがあるという方は、あんがい少ないのではないのでしょうか。日本で見られるツグミの仲間では、最も大きな鳥で近くで飛びたれたりすると、なかなかの迫力です。ツグミと比べるとはるかに警戒心が強いので、じっくり見るというのは難しいかもしれません。雑木林の中のやや湿った地上にすることが多いようです。平林寺や森林公園では、よく見られます。

寒さは、これからが本番です。しっかりと装備をして、フィールドに出かけましょう。

（藤原寛治）

コサギ（サギ科）

潮が満ち干潟が消えた。シギやチドリがいなくなった。かわりにコサギがやって来て、採餌をはじめた。

しばらくやりゆきを見ていたがこれが面白い。人間ならばさしずめ魚をとる時は出来るだけ静かに、時には身を潜め魚に気付かれな

いようにする。このコサギの場合は全くちがう。水面から飛び上がり、わざと羽を大きく広げ魚を驚かす。驚いて魚が逃げる所を素早く飛び込むようにしてくちばしでとらえる。魚を追う名漁師コサギに思わず拍手。

（写真と文・小川寿一）



一番寒い季節。寒い朝、起きて行くのもおっくうですか。でも人気のある冬鳥は、これからが最も安定して見られる季節。見逃さないように、水辺に山に雑木林に探鳥会に。

持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、(もしあれば) 双眼鏡などです。

参加費は、一般=100円、会員及び中学生以下=50円。予約申し込みは必要ありません。小雨決行です。

夢中になり過ぎて、鳥を驚かししたり、植物を荒らしたりなどしないように。いつもフィールドマナーをお忘れなく。

東京都北区・浮間公園探鳥会

期日：1月3日(日)

集合：午前9時30分 埼京線浮間舟渡駅前
交通：埼京線大宮9:03発→武蔵浦和9:16発→浮間舟渡9:25着

解散：正午ごろ一応解散

担当：海老原、福井、登坂

見どころ：ホロ酔い迎春探鳥会。新年の鳥初めは、池のカモヤカモメ達との御挨拶。次に荒川でカワウ大明神に初詣。一応解散の後、各自持参のお神酒でホロ酔い……ではなく、お清めをすれば、何かお年玉が飛び立……たないかなあ。

長野県・軽井沢探鳥会

期日：1月9日(土)

集合：午前6時30分 大宮駅中央改札口前
交通：高崎線大宮6:42発普通電車に乗車、高崎で特急に乗換え、軽井沢駅下車。途中駅からの乗車も可。大宮7:22発特急あさま1号利用も可。軽井沢駅からバス利用。

解散：現地にて午後3時ごろ

担当：中島、楠見、草間、横山

見どころ：白い雪、赤い鳥。真赤なほっぺのウソ。お腹の薄紅色はベニマシコ。しっぽの先の紅一点ヒレンジャク。赤紫の乱舞、ハギマシコの群れは今年はどうでしょうか。凍り道、雪道を歩きます。足元の準備と防寒は怠りなく。

越谷市・古利根川探鳥会

期日：1月10日(日)

集合：午前9時30分 東武鉄道北越谷駅東口
(その後現地までバス利用)

交通：東武伊勢崎線新越谷9:25発→北越谷9:30着 / 東武伊勢崎線春日部9:15発→北越谷9:29着

解散：午後1時ごろ

担当：山部、石川、木村

見どころ：目の前でんびりしているカモさん達を見ながら土手を歩きましょう。ヨシガモのあの頭は見えるかな。

熊谷市・大麻生探鳥会

期日：1月10日(日)

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷9:04発→大麻生9:12着 / 秩父鉄道寄居9:01発→大麻生9:19着

解散：午後1時ごろ

担当：鈴木(忠)、渡辺(敦)、諏訪

見どころ：真冬の荒川は水鳥達で大賑わい。色様々なカモ達に、もしかするとコハクチョウ。空には彼等を狙う……も。



探鳥会へ
どうぞ!!

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：1月17日（日）
集合：午前8時15分 北浦和駅東口 または
午前9時 浦和市立郷土博物館前
（北浦和駅の場合、その後バス利用）
解散：午後1時ごろ
共催：浦和市立郷土博物館（参加費無料）
担当：楠見、福井、渡辺（周）、乗田、手塚
見どころ：見沼の里の冬を彩る鳥達。芝川には
のんびりカモさんに食事のシギさん。林にキツキやカラ。上空には？

寄居町・鉢形城跡と荒川探鳥会

期日：1月24日（日）
集合：午前9時 寄居駅南口
交通：東武東上線急行川越8：00発→森林公園
園乗り継ぎ→寄居8：59着／秩父鉄
道熊谷8：30発→寄居8：58着
解散：午後2時ごろ
担当：田村、新井、北川、萩原、小淵、林
見どころ：山裾の冬をたずねて。冬の森の小
鳥。流れに浮かぶカモ達。水面に走る
カワセミの光。そして……。

久喜市・昭和池探鳥会

期日：1月24日（日）
集合：午前9時10分 東北本線白岡駅北口
または午前9時45分 昭和池駐車場前
（白岡駅の場合、その後バス利用）
交通：東北本線大宮8：49発→白岡9：04着
解散：午後1時ごろ
担当：石川、浅田、小林、中島
見どころ：ただひたすらカモ。1万羽近いカ
モは県内最多。中でもトモエガモが（
去年までは）3ヶタ、これはもう天国。

『しらこぼと』袋つめの会

とき：1月30日（土） 午後1時～3時ごろ
会場：浦和市立コミュニティーセンター2階
第2講座室（浦和駅西口から県庁通り
西進、中山道を左折し約600m右側）
案内：今月もよろしく。賑やかで楽しめて来
れば必ず何か得ることのある会です。

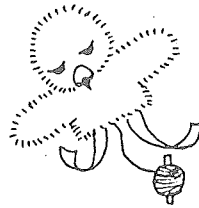
野鳥写真クラブ定例会

とき：1月30日（土） 午後3時ごろ～5時
会場：『しらこぼと』袋つめの会と同じ
案内：見せる人も見るだけの人も気軽な心で。

吉見町・吉見百穴周辺探鳥会

期日：1月31日（日）
集合：午前9時30分 東武バス停百穴入口前
交通：東武東上線東松山駅東口8：58発、ま
たは高崎線鴻巣駅東口8：50発のバス
利用。

解散：午後1時ごろ
担当：榎本、乗田、岡安、赤瀬
見どころ：田圃の冬に遊ぶタゲリの群れ。11
月の探鳥会では、少し



時期が早くてごめんな
さい。今度こそ広々と
した田圃に群れる姿が
見られます。池のカモ
や上空にも気をつけて。

三芳町・多福寺探鳥会

期日：1月31日（日）
集合：午前9時30分 多福寺駐車場
交通：東武東上線川越8：37発→上福岡8：
42着、西武バス停上福岡駅入口から所
沢駅西口行き8：51発→地藏前下車
（バスは大宮駅西口8：30始発です）
／ 東武東上線朝霞台8：29発→上福
岡8：42着、以下同上
解散：午後1時ごろ
担当：藤原、黒田、長谷、杉本
見どころ：武蔵野の冬景色、雑木林の冬の鳥。
郷愁を胸に散策もよし、通り過ぎる小
鳥の群れに魅惑的な姿を探すもよし。

2月7日（日）滑川町・森林公園探鳥会

蓮田市・黒浜沼探鳥会

2月11日（祝）所沢市・狭山湖探鳥会

伊奈町・小室無線山探鳥会

2月21日（日）浦和市・三室地区探鳥会

本庄市・阪東大橋探鳥会

2月28日（日）大宮市・高木地区探鳥会

（カット＝鈴木加代子、鈴木高士）

行事報告

11月1日(日)～7日(土) 熊谷駅ビルAZ
バードウォッチング・ウィーク 可愛い鳥た
ちの写真展

写真出品した人 海老原美夫、金井祐二、正
田 茂、登坂久雄、中村重勝、平野伸明、松
田 喬、吉本富美子、(8人)。

会場ボランティア 海老原教子、海老原美夫、
小淵健二、金井祐二、北川慎一、諏訪隆久、
登坂久雄、林 滋、福井恒人、渡辺 敦(10
人)。

ただ写真を並べて見せるだけではなく、会
場ボランティアたちが見に来た人たちに積極
的に声をかけ、バードウォッチングについて、
野鳥を初めとする自然と人々との関わりあい
について、会員と市民との対話の場として盛
り上がりを見せた。



バードウォッチング教室も盛況

11月1日(日) 富士見市 柳瀬川

人 41人 天気 曇 鳥 コサギ カル
ガモ コガモ オナガガモ コチドリ タゲ
リ ハマシギ ユリカモメ シラコバト キ
ジバト ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ
セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ
ツグミ シジュウカラ カワラヒワ スズメ
ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス
(24種) 開始に合わせてるようにタゲリが現わ

れ、やがて10数羽の群れとなった。シラコバ
トも姿を見せ、東京方面からの参加者を喜ば
せた。天気も曇から次第に青空がのぞくよう
になり、まずまずの探鳥会日和だった。

11月3日(火、祝) 川口市 差間

人 42人 天気 曇 鳥 コサギ カル
ガモ コガモ ヒドリガモ ハチクマ チョ
ウゲンボウ キジ タゲリ ユリカモメ ウ
ミネコ シラコバト キジバト ヒバリ ハ
クセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モ
ズ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオ
ジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ
ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブ
トガラス(29種) 冬を前にして、アオジやウ
グイスも里において来て、やぶの中でひっそ
りと鳴いていた。見沼田圃の上空にはタゲリ
6羽やチョウゲンボウ、芝川には、やや上流
の三室付近で見られないウミネコも現われた。
後方を歩いていた運のよい人たちはハチクマ
も見られた。ちなみにこの欄の担当者は運の
悪い少数の内に入っていて、残念。

11月8日(日) 熊谷市 大麻生

人 30人 天気 晴 鳥 カイツブリ
ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コ
ガモ オオタカ ノスリ コジュケイ イソ
シギ キジバト ヒバリ キセキレイ ハク
セキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ジョ
ウビタキ シジュウカラ ホオジロ カシラダ
カ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ
オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス
(27種) 立冬に合わせて、この秋一番の木枯
しの強い一日だった。風を避けて、荒川の土
手の下を歩く。鳥も風を避けていてなかなか
現われず、やぶの中から時折顔を見せる程度。
それでもカシラダカやジョウビタキが姿を見

せ、大麻生もいよいよ冬。

11月14日(土) 奥日光 戦場ヶ原

人 35人 天気 晴 鳥 カイツブリ
マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ ホ
シハジロ キンクロハジロ トビ キジバト
コゲラ セグロセキレイ ミソサザイ ルリ
ビタキ ツグミ キクイタダキ エナガ コ
ガラ ヒガラ シジュウカラ ゴジュウカラ
キバシリ メジロ アトリ マヒワ シメ
カケス ハシボソガラス (27種) 今年はや暖か
いためかツグミが残っていた。コースの至る
所でキバシリ、ゴジュウカラ、キクイタダキ、
コガラ、コゲラが現われた。また、アトリ、
マヒワなども見られ、皆を十分に楽しませて
くれた。

11月15日(日) 浦和市 三室地区

人 46人 天気 曇 鳥 ダイサギ コ
サギ カルガモ コガモ オナガガモ チョ
ウゲンボウ ハマシギ クサシギ タカブシ
ギ イソシギ タシギ ユリカモメ シラコ
バト キジバト カワセミ ヒバリ キセキ
レイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨ
ドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイ

ス シジュウカラ ホオジロ アオジ カワ
ラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシブ
トガラス ハシボソガラス (33種) 時々細か
い雨が落ちて来るあいにくの天気。でも熱心
な参加者にはちゃんとプレゼントが用意され
ていた。なんと、カワセミが3度も現われて、
皆心ゆくまで観察。今年はやって来るのが遅
かったツグミも木の上にチラリ。ハマシギの
群れの飛行も見られ、冬鳥もようやくそろっ
てきた。これからが三室の一番いい季節だ。

11月22日(日) 桶川市 川田谷

人 41人 天気 晴 鳥 ダイサギ コ
サギ コガモ オオタカ コジュケイ キジ
タゲリ クサシギ タシギ キジバト ヒバ
リ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキ
レイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビ
タキ ウグイス シジュウカラ ホオジロ
カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ ス
ズメ ハシボソガラス (27種) 前日までは数
羽しか見かけなかったタゲリが、比較的まと
まって出てくれるというリーダーにとっては
うれしい誤算。それに、若いオオタカが最後
まで会を盛り上げてくれた。冬鳥も出そろっ
て、野辺の晩秋を皆で満喫。

参加者の声

大麻生探鳥会に参加して

金子真理 (大宮市)

ザーザーと嫌な雨の音で目が覚める。
どうぞ天気が回復しますようにと祈りながら
身仕度を済ませ、さあ出発。列車に乗るころ
には、すっかり晴れあがり、遠い山並みの向
こうに真っ白にお化粧した富士の姿が見える。
思えば、8月に初めて大麻生、明戸の探鳥
会に出てから、これでこの場所は4回目にな
る。

夏の強い日射しから、蔓珠沙華の花盛りと
なり、日ごとに秋らしく色合いを変え、草木
燃える11月、を期待していたのですが、あま
りにも風が強過ぎて視界に何も入ってこない。

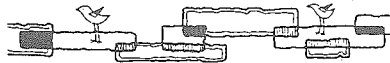
鳥も飛ばされてしまったかしら。それでも
ホオジロ、カシラダカが林の中から現われて

一安心。シメ、カワラヒワも飛んでくれて、
待望のジョウビタキも最後尾の方々のねばり
で可愛い顔を出してくれた。私はこれで
もう満足。常連のカワセミさんや冬の使者ツ
グミが出なくても、幹事さんに不平は言いま
せん。明戸堰でのフィナーレは、木にとまっ
ているカワラヒワ。強風のため、木にしがみ
ついているのだけれど、尾っぽが吹かれて逆
上がりでもしそうな勢いに、思わず笑ってし
まった。

これから落葉の季節。8月に入会させて頂
いた私は、エクリプスを終えて綺麗に羽繕い
されたカモや、冬鳥、春鳥とまだまだ見たこ
とのない種類、聞いたことのないさえずりへ
の期待で、胸をときめかせています。

この日、鳥合わせでは、27種。皆さん、お
疲れ様。楽しい一日でした。

連絡帳



賛助会員の会費の取り扱いについて

前月号でお知らせした会費の自動引き落とし制度。ぜひ普及してほしいのですが、ここで困ったのが、支部賛助会員の会費は本部のオフコンで取り扱えないことです。そこで、今月から次のようにすることになりましたのでよろしく願います。

〔団体の賛助会員〕従来通り支部からご連絡しますので、本部からの連絡にかかわらず、直接支部に会費をお送りください。

〔個人の賛助会員〕さきにお手紙差し上げたとおり、正会員として自動引き落とし制度をご利用ください。賛助会費の差額分8,000円は支部からご連絡しますので、支部のほうにお送りください。この分については寄付の欄に掲載させていただきます。

猶急ながら立地承認

11月号でお知らせした鳩山町ゴルフ場建設問題。11月14日に開催された県の土地利用推進行政会議において、立地承認の方向が打ち出されました。埼玉県支部からの要望書なども含めて慎重に検討したが、地権者のうち面積にして90%以上が開発を推進していること、周辺住民の半数以上が同意していること、緑地率が基準をかなり上回っていることなどを総合的に判断して、立地承認の方向が決まったという説明です。

あのオオタカたちはどこに行ったら良いのでしょうか。

題字『しらこぼと』＝山下静一（財）日本野鳥の会会長、イラスト見出し＝鷹尾正済（p5, 6, 12, 表紙デザインも）・鈴木加代子（p8）・渡辺周司（p10）

ご寄付ありがとうございます

次の方々からご寄付をいただきました。

秋元ひろみ 300円 漆原 2,216円 海老原美夫・福井恒人・福井 巨・渡辺周司 7,700円 笠井 実 5,000円 神山和一郎 1,000円 森本國夫 10,000円（50音順、敬称略。今月から派遣講師料も寄付金として掲載）

会員数は

12月20日現在 802人です。

活動報告

- 11月1～3日 鳩山町中央公民館文化祭に、写真クラブ作品展示。
- 11月8日 総務部会議。役員会議（司会・新井清子、各部の報告、支部から派遣した講師の報酬等の取り扱いについて、支部賛助会費の取り扱いについて、その他）。
- 11月15日 編集部会議（11月号の反省、1～2月号の構成、来年度の方針、その他）。
- 11月21日 研究部会議（冬鳥分布調査など）。
- 11月22日 浦和市教育委員会主催ジュニアリーダー講習会にて、市内小中学生に浦和の自然観察指導（場所・さぎ山記念公園、講師・海老原美夫、指導・福井恒人、福井巨、渡辺周司）。



またまた、ごめんなさいコーナーを出すはめになりました。このままだと常設化しそうです。気を引き締めたいと思います。

渡良瀬遊水池に行ってきました。ノスリ、ハイロチュウヒ♀、チュウヒ♀、チョウゲンボウ♂♀、コチョウゲンボウ♂♀、ミサゴ君たちが元気に飛びまわっていました。あとコミミズク君とオオタカ君が出てくれば、文句なかったのになあ。（山部直喜）

『しらこぼと』 1988年1月号（第44号） 定価 100円（会費に含まれます）

発行人 今井昌彦 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 ☎ 0488（32）4062

〒 336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130

印刷 望月印刷株式会社

（本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします）